

平成 29 年度

軽米町教育委員会の事務の管理及び
執行の状況の点検及び評価報告書

平成 30 年 7 月

軽米町教育委員会

1 はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正（平成 20 年 4 月 1 日施行）に伴い、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表することが規定されました。

軽米町教育委員会は、平成 21 年 2 月 23 日に「軽米町教育委員会の事務の管理及び執行状況についての点検及び評価の実施要領」を施行し、点検及び評価を実施してまいりました。

報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第 26 条の規定に基づき、平成 29 年度に執行した事業について、教育委員会で点検・評価を行い、客観性を確保するために、教育に関する学識経験者の意見を付して報告するものです。

《参考》

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（昭和 31 年 6 月 30 日法律第 162 号）
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第 1 項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第 4 項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

平成 29 年度在籍の軽米町教育委員名簿

教 育 長	菅 波 俊 美
教育長職務代理者	戸草内 勝 夫
委 員	兼 田 寿
委 員	関 向 玲 子
委 員	田 端 守

2 教育委員会議の開催状況

教育委員会議については、毎月「教育委員会定例会」を開催し、また、3 月に「教育委員会臨時会」を開催したことから、定例会 12 回、臨時会 1 回あわせて 13 回の会議を開催しました。

3 教育委員会議の審議状況

平成 29 年度は、合計で 17 件の議案について審議しました。

- (1) 教職員及び事務局職員の人事に関する事 2 件
- (2) 附属機関の委員の委嘱 6 件
- (3) 教科書の採択に関する事 2 件
- (4) 教育委員会に関する規則改正に関する事 5 件
- (5) その他教育行政に関する事 2 件

また、毎月の定例会議において、当月の事務事業の報告も行っています。

4 教育委員会議以外の活動状況

- (1) 総合教育会議（町長、教育長、教育委員会）

第 1 回 5 月 22 日（月）

第 2 回 1 月 29 日（月）

- (2) 町議会関係 7 回（定例会 4 回、臨時会 3 回）

本会議及び特別委員会等への出席

- (3) 主な会議、研修会等への出席（17 件）

ア 教育長会議等への出席 11 件

イ 教育委員関係研修会等への出席 6 件

- (4) 学校訪問の実施

① 5 月 9 日 晴山小学校、軽米中学校

② 5 月 25 日 軽米小学校、小軽米小学校

③ 10 月 24 日 軽米幼稚園、軽米小学校

④ 10 月 25 日 軽米中学校、晴山小学校、小軽米小学校

⑤ 11 月 2 日 軽米小学校、軽米中学校（県算数・数学教育研究大会）

⑥ 11 月 24 日 学校一斉公開

5 平成 29 年度事業の点検・評価

（別紙 様式 1 「主要事業の概要」のとおり）

6 教育に関する有識者の意見

(1) 教育委員会事務の点検及び評価の概要

平成 29 年度の軽米町教育委員会の事務事業は、平成 25 年 3 月に策定された「軽米町教育振興基本計画（平成 25～29 年度、5 ケ年計画）」に基づき、実施されている。

その多方面にわたる教育関係施策、事業について、大きく 6 つに分類された事業の概要について説明を受け、それらを点検・評価した。

(2) 主要事業に対する意見

① 生涯学習の推進について

「協働・参画による生涯学習のまちづくり」を推進するため、生涯学習推進本部を設置し、生涯学習推進員・生涯学習推進担当員を配置して推進体制を整備し、住民の主体的、自主的な学習活動の支援と多彩な学習機会の提供に努めている。

生涯学習カレンダーを全戸配布したことにより、事業間の日程調整や各種イベントの情報提供がなされ、町全体、また、地域での様々な行事等の積極的な実施につながっている。

今後、人口減少や高齢化が進む中、協働・参画による地域づくりを推進するため、住民への学習活動の支援、自治公民館を拠点とした推進員・担当員の活躍に期待したい。

② 学校教育の充実について

就学前教育については、個々の特性に応じた指導に努めると共に、野外活動や地域人材を活用した体験的活動に積極的に取り組んでいる。

町内の町立学校については、小学校 3 校・中学校 1 校の体制が定着し、整った教育環境のもとで順調に教育活動が展開されている。

学力の向上については、全町立学校への学力向上支援員の配置により、習熟度の程度に応じたきめ細かな指導が実施され、個に応じた指導が充実している。また、小中学生の夏冬学習会の実施や中学生への漢字・英語の検定料助成は、引き続きお願いしたい。

特別支援教育は、近年重要な事項であり、特別支援員の町立学校への配置により、支援体制の充実を図っており、安定した学校運営に大きく役立っていると思われる。

キャリア教育については、小中学生が将来を考える良いきっかけとなっている。町内の事業所で中学生の職場体験の場を提供していただき実社会での勤労観・職業観の醸成に資する取組となっている。

児童生徒の安全については、通学路安全会議の開催等により登下校時の事故防止に努めている。カーブミラーの設置などハード面の検討や、不審者対策等を含め、地域の協力を得ながら引き続き取り組んでいただきたい。

町として力を入れている英語教育やICT活用教育については、計画的な教員研修や着実な実践を行う中で、児童生徒の能力向上につなげていただきたい。

いじめの問題については、教職員の意識が高く早期発見と組織的な対応により、深刻な問題はなく、引き続き「軽米町いじめ防止等のための基本的な方針」に沿って、適切な対応をお願いしたい。

連携型中高一貫教育については、地域学習に取り組む等、多彩な交流事業が展開されているが、軽米高校志願者数を増やすため、さらなる中高の交流促進と軽米高校の魅力づくりのため、支援を継続してもらいたい。

③ 魅力ある社会教育の推進について

社会教育については、家庭教育をはじめ、生涯各期における学習活動の支援と学習環境整備により推進されている。

家庭教育については、子どもの発達段階に応じた多くの事業を展開しており、全ての教育の出発点として充実した内容となっている。

青少年の学習活動支援については、子ども会育成会等の団体活動を支援することにより、多種多様な学習や体験の機会を提供している。事業内容等も工夫され、団体育成と青少年教育を併せ効果的な事業実施がされている。

社会参加の支援については、「生涯学習フェスティバル実行委員会」「かるまい朗読会実行委員会」が、住民主体で活動している。継続した支援の結果として評価できる。

自治公民館活動である夢灯り事業は、冬季にイルミネーション事業と同時開催で行われ、当町のイベントとして定着した。今後も各機関と協力するなどし、地域づくりの一環として継続した取組を期待する。

町立図書館の事業運営については、乳幼児期からの読書環境づくりや子ども向けの事業、また学校図書館支援が質・量とも充実している。今後は、大人についても貸出冊数を増やす等、全体的に図書館の利用促進を図られたい。

④ 生涯スポーツの振興について

施設整備については、町民体育館の屋根外壁及び照明の改修工事が行

われ環境が整備された。今後も施設の能力維持保持に努めていただきたい。

生涯スポーツに関する施策については、総合体育大会の各種競技や町民体育祭への参加者の減少が心配されたが、子ども会や中高生の参加により事業の活性化につながった。

チャレンジデーについては、朝のラジオ体操の実施をはじめ、事業PR活動等、事業実施に工夫がみられる。今後とも、総合体育大会とともに、中心的な事業として取組をお願いしたい。

⑤ 多様で個性ある文化の創造について

芸術文化の振興については、町民の芸術文化活動の成果を発表する場として、町民文化祭を開催し、また、各種芸術文化講座の開催や、町文化協会等への団体支援により、町民の文化活動を推進している。また、団体によっては、住民自らの参加型事業も展開されている。

東京多摩交響楽団演奏会は、芸術鑑賞の機会であると同時に、町内の音楽団体との共演や、中学生への楽器指導も行われ、参加型の事業となった。

郷土芸能の継承活動については、後継者の不足から活動を休止する団体が出ているが、継続した活動支援を行い、保存に努めていただきたい。

⑥ 教育振興運動の推進について

岩手県独自の教育運動である教育振興運動は、「子どもは地域全体で育む」という共通認識のもと全県で進められており、当町では子どもに係わる全ての事業の基本となっている。

今後とも地域の教育力を高め、参加型の実践活動を展開しながら、子どもたちの「基礎学力の向上」「健全育成」「健康安全」を地域全体で取り組む運動の展開を望む。

以上のとおり、点検し、評価しました。

平成30年7月30日

有識者 下 又 善 作

有識者 大 崎 孝 男

有識者 園 田 清 和

【様式1】

主 要 事 業 の 概 要

評 価	A	十分達成できた
	B	おおむね達成できた
	C	やや不十分だった
	D	不十分である

【分類】 生涯学習の推進

【分類】 学校教育の充実

【分類】 魅力ある社会教育の推進

【分類】 生涯スポーツの振興

【分類】 多様で個性ある文化の創造

【分類】 教育振興運動の推進

軽米町教育委員会

主 要 事 業 の 概 要

評価

- A 十分達成できた C やや不十分だった
 B おおむね達成できた D 不十分である

【分類】生涯学習の推進

1 生涯学習推進体制の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 生涯学習推進体制の充実	① 生涯学習推進本部、幹事会の設置 ② 生涯学習推進員の設置 (H29～H30) ③ 生涯学習推進担当員の設置 ・全職員を町内16地区に配置 ④ 生涯学習推進員の研修会 23人参加	A	・生涯学習推進本部会議を開催し、生涯学習に関する施策と推進体制を整備した。 ・生涯学習推進員と担当員を配置し、地域での生涯学習推進体制を整備した。また、研修会では、近隣の地区公民館の活動状況を学び、推進員の資質向上に努めた。
2) 生涯学習推進計画に沿った生涯学習事業の推進	① 生涯学習推進「社会教育・生涯スポーツの方針と計画」作成	A	・生涯学習活動を推進するため、社会教育・生涯スポーツの方針と年間事業を決定し、計画的な事業推進を図った。
3) 学習情報の提供	① 生涯学習カレンダーの発行 全世帯配布 ② 広報お知らせ版・かるまいテレビ文字放送、町ホームページ等による学習機会の提供	A	・カレンダー発行は、各関係機関との連絡調整により作成し、年間を通じた事業調整機能を担っている。 ・町のホームページを活用しながら、町民に必要な学習情報を随時提供するよう心掛けている。

2 協働・参画による生涯学習の推進

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 学習活動の支援	① 地区学習会講師派遣事業 ② ふれあい共食事業での学習メニューの紹介と講師派遣 ③ 学社融合・社会人講師派遣事業	A	・多様な学習ニーズに応えるため、関係機関・団体と連携し、さらに学習機会の拡充を図る必要がある。 ・学社融合・社会人派遣事業は家庭教育事業としても実施され、各学校で定着している。
2) 住みよい地域社会づくり	① 自治公民館長研修会の開催 53人 ② 自治公民館長等リーダー視察研修会 16人 ③ 自治公民館連絡協議会活動支援	B	・自治公民館を学習拠点として、地域活動の支援により、地域コミュニティの形成を図った。 ・地域活動をさらに充実したものとするために、引き続き地域リーダー育成が必要である。
3) 協働・参画のまちづくり	① 第16回軽米町民生涯学習フェスティバル(住民の手による生涯学習フェスティバル実行委員会) 実行委員会開催 2回 22団体出演 展示2部門 508人 ② 「新春まちづくり交賀会」 170人 ③ 東京多摩交響楽団演奏会 来場者 220人 ・指揮体験 ・合唱(童謡を歌う会と共演) ・軽米中学校吹奏楽部への楽器指導	A	・住民の手による生涯学習フェスティバルは16年目を迎え、協働参画意識の高揚の一助となっている。 ・実行委員、ボランティアの固定化のため新規会員の加入促進が必要である。 ・新春まちづくり交賀会は、住民との協働による事業の定着化が図られてきている。 ・演奏会の開催にあたって、周知や当日の会場準備、後片付け等、文化協会の会員をはじめとする多数の方にボランティア協力をいただき、町民との協働参画が図られている。

【分類】 学校教育の充実

1 就学前教育の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 幼児教育の充実	① 幼稚園教育要領の趣旨に基づき園の実態に応じた教育課程を編成し、保育指導を展開(計画的野外活動への取組) ② 定期的な園内研修の実施とその他の研修への参加	A	・幼稚園教育の基本である「幼児期にふさわしい生活が展開されるように、遊びを通しての総合的な指導を行い一人ひとりの特性に応じた指導」に努めた。 ・幼児の実態に応じ計画的に野外活動を実施した。 ・伝統的な文化に触れさせるとともに、身近な人とかかわりを深めるため、地域の人材を講師に招き体験学習を実施した。 ・保育を充実させるため教職員の指導力向上に向けた各種研修を行った。
2) 施設運営の弾力化の推進	① 子育て支援事業(園開放を通して保護者からの子育てについての悩みや相談ごとに対応する。) (支援事業を実施することで幼稚園教育を理解してもらい開かれた幼稚園をめざす) ② 預かり保育と学校給食の継続実施	A	・未就園児の体験入園を通じた園開放が幼稚園教育の理解を図る場となり、円滑な幼稚園入園へとつながった。 ・保育ニーズに対応するため、預かり保育や学校給食(副食)の提供を実施し、幼稚園運営の弾力化を図った。
3) 幼稚園、保育園、小学校との連携	① 幼保小連絡会の開催 ② 幼保交流会の実施 ③ 公開保育、授業の実施と参観	A	・幼稚園、保育園、小学校の連絡会や交流会等を開催し、相互の参観による情報交換を行った。 ・幼児と児童の交流、教師同士の交流や合同研修等の確保がなされた。 ・保育園の子どもたちとの交流を行い、小学校への円滑な就学を図った。

2 学力の向上

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 「わかる授業」づくりの推進	① 学習指導要領における到達目標を分析し、授業改善を図るための研究と実践を推進 ② 授業改善研修会(算数・数学)の開催	A	・学習指導要領の趣旨徹底を図りながら、教員の指導力向上を目指した校内研究会を実施した。 ・授業改善研修会に先進的な実践家を招聘し、「わかる授業」についての助言を得ながら、基礎的知識、技能を習得させ、それを活用することによって問題解決を図るという基本的な能力を身につけるような授業実践に係る授業参観及び講義を行った。
2) 個に応じた指導の充実	① 習熟度別指導の実施 ② 少人数指導の実施 ・基礎、基本の確実な習得を目指し、理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導を実施する体制作り ③ 学力向上支援員の配置(小学校4人、中学校2人) ④ 小・中学生学習会(夏休み・冬休み)の開催 ⑤ 中学校漢字能力検定料の助成 ⑥ 中学校英語検定料の助成	A	・子どもたちの理解度を把握するため、少人数指導やチームティーチングなどを取り入れながら、個々の理解や習熟度に合った学習指導を展開した。 ・学力向上支援員の研修会を新たに開催し、支援についての理解を深めることができた。 ・サマー学習会(小中学生 平成29年8月7日～8日まで2日間)及びウインター学習会(中学生 平成30年1月9日～10日まで2日間)を開催し、外部講師及び学力向上支援員、英語指導助手による個別指導を行うとともに、ウインター学習会では中学3年生を対象とした英数の習熟度別講義を新たにを行い、算数・数学、英語を中心に学力向上に努めた。

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
3) 学習定着状況の把握	① 学力検査・学習定着度状況調査 ・標準学力調査 小学校1～4年生 ・県学力調査 小学校5年生 中学校1.2年生 ・全国学力調査 小学校6年生 中学校3年生	A	・学力検査、学習定着度調査などの結果を分析し、課題整理や指導方法の見直しを行うことにより、調査結果を指導改善に生かすよう努めた。 ・学力向上対策検討会議を開催し、外部の講師を招いてアドバイスをいただきながら、軽米の子供たちの状況や改善策を共有することで、学力向上に努めた。
4) 学ぶ意欲、態度及び課題解決能力の育成	① 授業と連動した家庭学習の推進 ② 学習の適切な評価を実施	A	・児童生徒に自学自習の習慣を身につけさせるため、授業と連動した家庭学習を行うよう意図的、計画的に課題を与えるとともに、学習の成果について適切な評価を与えるよう努めた。

3 特別支援教育の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 就学支援の推進	① 就学支援委員会の開催 ② 特別支援学級の設置	A	・心身に障がいを持つ子どもの早期発見と的確な実態把握のため、関係機関が会合を持ち、適切な就学支援に努めた。 ・5歳児健診と連携し、個々の児童の早期実態把握に努めた。 ・就学支援委員会の判定に基づき、次年度に向けた特別支援学級確保に努めた。
2) 支援・指導体制の充実	① 専門的な機関との連携 ② 特別支援教育コーディネーターの配置 ③ 特別支援員の配置(小学校5人、中学校1人) ④ 特別支援教育研修会の実施	A	・障がいのある子どもとその保護者等に対し、相談や支援ができる体制の整備に努めた。 ・各学校に特別支援教育コーディネーターを配置して、校内の支援体制を整備するとともに、特別支援学校との連携により障がいに応じた支援を行った。
3) 交流及び共同学習の推進	① 通常学級と特別支援学級の連携 ② 小・中学校と特別支援学校との連携	A	・学校行事に向けた取組等で、通常学級と特別支援学級が連携し、児童生徒が共同的に学習を行った。

4 道徳教育の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 学校全体で取り組む道徳教育	① 道徳教育推進のための協力体制の整備	A	・学校が組織体として一体となって道徳教育を進めるために、道徳教育推進教師を位置付け、全教師が力を発揮できる体制を整えた。
2) 「道徳の時間」の充実	① 「道徳の時間」の充実	A	・副読本や「心のノート」を活用し、児童生徒の意欲や日常生活と結び付けた道徳教育を行った。
3) 家庭、地域社会との連携を深める道徳教育	① 家庭や地域の力を生かした道徳教育の実施 ・福祉施設訪問や地域ボランティア活動への参加	A	・道徳教育全体計画と年間指導計画を作成し、他教科や領域だけでなく、学校行事や地域行事等と関連させる取組を行った。 ・地域の施設や地域の人々とのふれあいを大切にした取組を工夫し、家庭・地域と協力して豊かな心や温かな人間関係の育成に努めた。

5 健康教育の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 教育活動を通じた推進体制の確立	① 健康教育推進のための協力体制の整備	A	・各学校で保健主事を位置付け、学校保健計画を作成し、学校保健に関する組織活動の推進を図った。
2) 学校保健の充実	① 児童生徒、教職員の健診 ・児童生徒(内科、歯科、耳鼻科、眼科、心臓、生活習慣病・貧血、脊柱側弯) ・教職員(定期健診、胃・大腸検診) ・プール細菌検査 ② 学校医、学校歯科医、学校薬剤師の委嘱	A	・日常の健康観察を重視し、学校医等との連携を図りながら、各種検診の実施と事後指導を行い、児童生徒の健康管理に努めた。 ・インフルエンザなどの感染発生時には、感染拡大を最小限にとどめるよう対策を講じた。 ・教職員に対する各種検診も行き、自らの体調管理を喚起した。 ・教職員に対するストレスチェックは次年度から実施予定である。
3) 学校安全の充実	① 学校遊具点検の実施 4～5月 ② AEDの維持管理 ③ 交通安全教室の実施 ④ 通学路安全推進会議の開催 ⑤ 小中学校メール連絡システムの導入	A	・学校管理下における各種事故を防止するため、学校施設の点検及び管理に努めた。 ・AEDのバッテリー交換等を行い維持管理に努めた。 ・児童生徒の登下校時の事故防止に努めるとともに交通安全教室などを実施した。 ・通学路安全推進会議を開催し、町内の危険個所の合同点検を実施した。 ・緊急連絡体制整備のため、携帯電話等を活用して小中学校PTAの連絡網を構築した。
4) 学校給食の充実	① バランスの取れた学校給食の提供 ② 地元食材の利用促進と郷土食の活用 ③ 放射性物質濃度の測定 ④ 軽米高校へ副食給食の提供 ⑤ 食物アレルギー対応給食の提供	A	・安全で栄養摂取基準量を満たした給食を提供するように努めた。 ・地域で生産される食材を活用した特色のある給食の提供に努めた。産直部会、ミル・みる会に物資納入業者登録を継続してもらい、地産地消の取組を更に進めることができた。 ・安全な給食を提供するため、放射性物質測定器により週1回の検査を実施した。 ・軽米高校支援のため、引続き副食給食の提供を行った。 ・食物アレルギー対応マニュアルに基づき、引き続き食物アレルギーを有する児童生徒に対し、原因となる食物の除去、代替食の提供を行った。
5) 食育の推進	① 学校訪問(食育・栄養学習) ・生産者を招いての給食交流会(とり肉の日給食会等 4回) ・栄養指導 16回 ・個別肥満指導 3回 ・児童対象の料理教室 1回 ② 食に関する広報誌を配布	A	・生産者との交流給食会などを行って、食育指導を展開し、生産者の苦労やバランスのとれた食事の大切さを伝える機会を設けた。 ・毎月1回広報誌を配布し、給食の情報、食事のマナー、伝統食、旬の食材を使ったレシピなどの情報の提供に努めた。
6) 体力向上の推進及び運動に親しむ態度の育成	① 各種競技会、記録会への参加 ② 体育祭・部活動等体育活動の推進 ③ 町内小学校駅伝大会開催(町小学校体育連盟主催)	A	・体育活動を通じて体力向上を図り、健康な体づくりを推進した。 ・体育祭、部活動等を通じ運動に取り組む姿勢態度の育成を促すとともに、各種競技会で成果を発揮できるように支援した。

6 環境教育の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 身近な自然や環境問題を題材とした学習の推進	① 地域資源を生かした体験的な学習の推進	A	・地域の身近な自然や環境問題を題材とした、観察や見学など体験的な学習により、実践的な環境学習を行った。
2) 家庭・地域との連携の推進	① 地域社会における環境への取組との連携 ・地域と連携した環境衛生活動 ・リサイクル活動の推進	A	・地域で取り組んでいる環境運動との連携やリサイクル運動などに取り組むことにより、環境問題への意識が醸成されたが、今後も一層の意識の向上に努めたい。

7 キャリア教育の推進

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 教育活動を通じた推進体制の確立	① キャリア教育推進のための協力体制の整備	A	・校務分掌にキャリア教育担当を位置付け、児童生徒の発達段階に応じて、小学校では進路の検索・選択にかかる基盤の形成、中学校では生き方や進路に関する現実的探索と勤労観・職業観の形成に努めた。
2) 勤労観・職業観の育成	① 進路指導・勤労教育の充実 ② キャリアスタートウイーク事業の実施(9月15日～22日、町内事業所職場体験)	A	・将来実社会で「生きる力」を育てる学習を進めるとともに個々の生徒に応じたきめ細かい進路指導を行った。 ・中学生が町内事業所で職場体験学習を行うことにより、実社会での勤労観、職業観の醸成に資することができた。
3) 学校・家庭・地域・産業界との連携の推進	① キャリア教育推進協議会の開催	A	・地域の事業所や関係機関をメンバーとしたキャリア教育推進協議会を開催し、生徒の受入先職場の確保など、キャリア教育を支える体制整備が図られた。

8 国際理解教育の推進

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 教育活動を通じた推進体制の確立	① 小学校外国語活動研修会の開催 ② 小学校中学年における国際理解活動の実施 ③ 中学校英語検定料の助成 ④ 児童生徒英語発表会開催	A	・小学校外国語活動研修会で、学習指導要領に係る講義や、授業の実践的活動に係る演習を実施し、新学習指導要領の移行期に向けての理解を深めた。 ・中学生の英語力向上のため英語検定に係る検定料の助成を行い、英語のスキルアップを図った。 ・小学校、中学校、高等学校の児童生徒が一堂に会し、英語発表会を開催した。
2) 外国語指導助手の活用	① 小学校 英語指導助手 1人 ② 中学校 英語指導助手 1人 (ALT) ③ 小学生イングリッシュデイの開催	A	・外国人を含む外国語指導助手が学校を訪問し、英語指導を行うことにより、児童生徒の英語力向上と国際的感覚の醸成が図られた。 ・小学生を対象に、英語によるゲームや活動により外国人や同世代との交流を図るため、新たにイングリッシュデイを実施した。
3) 海外派遣研修の充実	① 中高生海外派遣事業の実施 平成30/1/5～1/13(9日間) 訪問先 アメリカ合衆国・ポートランド 中学生4人・高校2人・随行2人派遣 (飛行機トラブルにより1日延長)	A	・外国青少年との交流やホームステイ等を通して、外国の文化等に直接触れることにより、語学力の向上と国際感覚を身に付けた個性豊かな人材を育成することを目的として、中高生の海外派遣事業を一戸町と合同で実施した。

9 情報教育の推進

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 教育活動を通じた情報活用能力の育成	① ICT機器の活用 ② 教員対象のICT機器活用・授業づくりの支援	A	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校に配置されたICT機器を活用し、情報収集や機器の操作を学ぶ情報処理能力の学習指導を展開した。 ・整備されたICT機器を効果的に活用するため、ICT支援員を派遣し、タブレットと電子黒板を連動させた授業づくり支援を実施した。
2) 情報モラルに関する教育の充実	① 生徒指導の実施 ② 学齢に応じた情報教育の推進	A	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話やネットに潜む危険性などを機会を捉えて、児童生徒に指導した。 ・アンケート調査等を行い、実態を把握して、より効果的な指導を行った。 ・インターネット等を活用した情報収集など、それぞれの発達段階に応じた情報教育を行った。 ・情報モラルに関わる研修や、教師が情報機器を効果的に活用するための研修を更に進めていく必要がある。

10 適応指導の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 生徒指導体制の一層の充実	① 生徒指導体制の確立	A	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌に生徒指導主事を位置付け、生徒指導委員会等を開催し、不登校や問題行動に組織的に対応したり未然に防いだりする取組を推進した。 ・問題行動やいじめ、不登校に係る研修会を開催し、生徒指導担当教員の資質向上に努めた。 ・いじめに係る指導体制や取組を強化した。
2) 教育相談体制の確立	① 教育相談員の配置 ・相談活動の実施(毎月1回) ② スクールカウンセラーの配置 ・年17回配置(小軽米小学校) ・年34回配置(軽米中学校) ③ スクールソーシャルワーカーの配置	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談員を置き、児童生徒や保護者の教育に関する悩みについて、相談活動を実施した。 ・スクールカウンセラー配置事業を活用し、児童生徒や保護者、教師に対する助言を実施した。 ・スクールソーシャルワーカーが各校を訪問し、支援が必要な児童生徒や家庭に対して適切に対応した。
3) いじめ不登校問題行動への対応	① 問題行動の未然防止 ② いじめや学校不適應など早期発見と適切な指導 ③ 児童相談所、町健康福祉課等との連携と情報共有	A	<ul style="list-style-type: none"> ・問題行動、学校不適應など、関係機関等と連携を図りながら未然防止に取り組んだ。 ・いじめ問題などを早急に発見するため、定期的なアンケートなどを実施し、発見後は迅速で組織的な対応を行うよう努めた。 ・スクールソーシャルワーカーや児童福祉関係機関と連携し、学校不適應に対応し解決に努めた。
4) 関係機関との連携	① 学校警察連絡協議会の開催(年4回) ② 生徒指導連絡協議会の開催(年4回) ③ 軽米まつり巡回指導(3日間)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導に関する協議会を開催し、警察と学校関係者の意思統一を図った。 ・各学校の指導体制について、情報交換を行うほか「次代を担う軽米の子」リーフレットを活用し、各校が共通した認識のもと指導体制の連携強化を図った。 ・PTAと連携し、軽米まつりの巡回指導を行った。

11 教員研修の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 教職経験者研修	① 授業力向上研修 ② 初任者研修 ② 教職経験者10年研修	A	・総合教育センターや教育事務所と連携を図りながら、教員の指導力向上に向けた各種研修を実施した。
2) 研修内容の充実	① 授業改善研修会の実施 ② 学力向上先進校視察研修の実施	A	・各学校の校内研修を充実させるため、主に主任層への研修に力点を置くことによって、学校組織全体の資質向上が図られた。 ・異校種の教員が同じ授業改善研修会に参加することを通して、それぞれの校種で行われている学習について共通理解を図ることができた。 ・先進的な授業や学校組織体制づくりについて、理解を深めることができた。

12 地域に開かれた学校づくりの推進

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 目標達成型の学校経営の推進	① いわて型コミュニティ・スクール構想に基づき、「まなびフェスト」(具体的で検証可能な目標)を設定	A	・学校や児童の実態に応じ、教職員、児童生徒、保護者が一体となって取り組むため、すべての学校が「まなびフェスト」を設定し、目標達成に向け取り組んだ。
2) 教育活動の評価の推進	① 学校評議員等の設置 ・幼 3人、小 12人、中 4人	A	・教育活動についての外部評価を取り入れ、教育活動の改善に取り組んだ。
3) 特色ある教育活動への支援	① 総合的な学習の時間の充実 ② 「いわての復興教育」の充実	A	・地域ゆかりの文化、人材等を活用した学習活動によって、各学校で特色のある教育活動が展開された。 ・東日本大震災被災地域との交流や調べ学習を通して、郷土を愛し、復興・発展を支える人材の育成が図られた。
4) 学校裁量の拡大への対応	① 学校長の裁量拡大 ② 事務の共同実施	A	・学校長のリーダーシップや教員の企画力の一層の発揮を促すための取組、事務処理体制の整備を行った。

13 中高一貫教育の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 系統的・継続的指導の充実	① 連携型中高一貫教育の実施	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校と高校が連携して指導体制を整備し、教科指導や部活動指導等を行った。更に有効な連携の内容も検討していきたい。 ・新たに、総合的な学習の時間に「地域学習(かるまい学)」に中高一貫で取り組めるよう、中学校と高校のカリキュラムを作成した。
2) 地域との連携	① 中高一貫教育地域支援者会議等の開催 ② 中高一貫だよりの配布(年4回:学期ごとに発行)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・中高一貫教育地域支援者拡大会議を開催するとともに、中高一貫だよりを発行し、地域の理解と協力を求めた。 ・生徒数が減少しており、軽米高校入学志願者を増やすためには、今後益々魅力づくり、特色づくりと共に地域との連携が重要となってくる。
3) 交流活動の充実	① 中高の交流事業の推進	B	<ul style="list-style-type: none"> ・中高の生徒や教師の交流で高校へのスムーズな進学準備が図られた。 ・交流授業等についての事前の打ち合わせを密に行い、新たな取組が展開できたが、更に今後も多彩な交流事業の実施が望まれる。

14 学校統合の推進と施設・設備の充実

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 教育環境の改善	① 学校施設の維持管理 ② 主な修繕及び工事 ・小軽米小学校教室床張替修繕 ・晴山小学校し尿浄化槽調整部品交換 ・軽米中学校グラウンド法面修繕 ③ 小中学校空気環境測定業務の委託 ④ 中学校校務用パソコン更新(25台)	A	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が健やかに学習できるよう、学校施設の状況を把握し、施設の維持管理及び整備を行った。 ・化学物質による健康被害を防ぐため、教室の空気環境測定を行った。 ・更新が必要な教職員用コンピューターの中学校用を更新した。

【分類】 魅力ある社会教育の推進

1 健やかな成長を育む家庭教育の支援

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 発達段階に応じた学習機会の提供	学校・家庭・地域の連携協力推進事業(国庫補助) ① 「家庭教育支援事業」 ・幼児期子育て講座 15講座、延べ215人 ・学童期講座 8講座、延べ229人 ・思春期講座 5講座、延べ485人 ・親子参加講座 9講座、延べ486人	A	・国庫補助事業を活用し、学習情報や学習機会の提供を図り、幼児から児童・生徒を持つ保護者に対して、家庭教育学級、講座を開設し、家庭教育の充実が図られた。 ・家庭教育の充実を図るため、子育てをする親の仲間づくりを促進し、親同士の交流の場を工夫していきたい。
2) 相談体制の整備	① 保健・医療・福祉等、関係機関との連携協力	A	・乳児検診・2歳児健診の機会を活用し、読み聞かせや子育て相談など、ふれあいセンターと連携した講座に取り組んでいる。

2 青少年の心を育む学習活動の支援

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 地域ぐるみの活動の支援	学校・家庭・地域の連携協力推進事業(国庫補助) ① 放課後子ども教室推進事業 町内全小学校で開設 410日 延べ9,661人 ② 学校支援地域本部事業 町内小中高で実施 ・学校巡回による図書室整備・活動支援 78回 ・小学校登下校時のスクールガード「見守り隊」活動 32人	B	・地域住民に協力いただきながら、町内全小学校で、放課後における安全な居場所を提供できた。しかし、時期によっては、少ない人数での対応になる教室もあり、安定的に安全管理員を確保する必要がある。 ・学校等の定期的な巡回により、学校図書館の整備や読書活動の機会の充実が図られた。 ・スクールガードの高齢化が進んでおり、ボランティアの育成が課題である。
2) 体験的な活動機会の充実	① 子ども会リーダー研修会 (県北青少年の家) 仲間づくり、野外活動 36人 ② 子ども会リーダー音更町視察研修 (受入)21人 (派遣)19人 ③ いわて希望塾 (陸中海岸青少年の家) 中学生2人派遣	A	・自然体験学習や十和田市の子ども会との交流により協調性を養い、心豊かでたくましい子ども会のリーダーの育成が図られた。また、研修の中でキャップハンディ体験を行い、障がい者への理解を深めることができた。 ・姉妹町音更町との相互訪問交流を通じて、地域の理解を深めるとともに、いろいろな体験を積み重ねることができた。また、自分を取り巻く家族や友達、学校、地域との関わりの大切さを知り、郷土に対する認識を深めることができた。 ・他市町村との青少年交流や復興の加速化にちなんだ意見発表からの学びを通じて、自らの地域を見つめ直し積極的に岩手の地域づくりを担おうとする人材育成が図られた。

3) 青少年団体活動の支援	① 町子ども会育成会連絡協議会活動支援 ・子ども会パークゴルフ交流会 雨天のため中止 ・子ども会スポーツ交流会(新規) 16子ども会 131人 ・子ども会卓球大会 17チーム 119人 ・子ども会世話人研修会 42人 講演「地域で育てる子と親の『育ち』」 NPO法人 はちのへ未来ネット 代表理事 平間 恵美氏 ② 青少年健全育成町民会議支援 キャップハンディ体験 (子ども会リーダー研修会) 36人	A ・町内子ども会相互の親睦と貴重な交流をとおして、多くのふれあいを深めることができ、青少年の健全育成が図られた。 ・子ども会スポーツ交流会については新たな取組だったが、多くの育成会員の協力により、成功に収めることができた。 ・子ども会の育成者を対象に、地域の中で、お互いの家族が見えるようなつながりを持つこと等、家庭での子育ての参考となるお話をきくことができた。 ・少人数化して、単位子ども会での活動が困難となっているため、学区内での連携強化や組織の見直しが必要と思われる。 ・聴覚障がい体験を通して、大変さを実感することで理解を深めることができた。
4) 成人式の開催	① 成人式 夏季開催 参加者73人(75.2%) 中学生ボランティア6人	A ・新成人を祝福し、その意義と責任を自覚させるとともに、記念講演の開催により、積極的に地域社会に貢献する意欲づけが図られた。また、中学生ボランティアによる式典運営も効果的であった。

3 生涯にわたる学習活動の支援

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 地域づくり活動の促進	① 自治公民館長研修会 53人 演題「久慈市ふるさと未来づくり事業の取組について」 講師 久慈市総合政策部地域づくり振興課地域づくり・女性参画係 係長 二又 壽大氏 集落支援員 清水 美花氏 村塚 純子氏 ② 夢灯り事業 13公民館 29人 ③ 自治公民館活動交流集会 28人 ④ 共食事業 17地区 延べ71回 1,732人 ⑤ 自治公民館連絡協議会活動支援	A	・地域に根差した公民館活動のあり方について学習することができた。 ・夢灯り事業を実施し、災害復興と地域づくり・絆の大切さを伝えることができた。 ・共食事業については、自治公民館や各行政区の創意工夫によるプログラムの展開がなされ、高齢者の積極的な参加により、活動に広がりが見られる。
2) 学習機会の提供	① 町民講座の開設(町民講師の活用) ・書道、菊植え、盆栽、ダンス、俳句、絵画、ヨガ、よさこいソーラン教室など14教室を開催 延べ720人	A	・町民講座として各種の教室を開催し、学習機会の提供に努めたほか、一部は町民文化祭への出展を行うなど、芸術文化の振興にも寄与できた。 ・新たな講座を開設することができたが、町民講座等からサークル活動へつなげ、文化協会への加盟に向けた取り組みが必要。
3) 高齢者の学習活動支援	① 高齢者教室「第45期寿大学」 ・運営委員会 2回 15人 ・講座開設10回 (講演、視察、落語会、健康講座、作品作り、音楽会・発表会鑑賞等) 延べ548人	A	・高齢者の生きがいを感じ、健やかで豊かな生活を送るための学習機会を提供できた。 ・運営委員の意見や要望を講座に反映できた。 ・作品作りに取り組み、町民文化祭に出展することができた。 ・社会参加活動につながる講座の開設が今後必要である。
4) 社会参加の支援	① 住民参加型活動への支援 ・住民の手による生涯学習フェスティバル実行委員会支援 ・かるまい朗読会実行委員会支援 ・各種ボランティア活動支援	A	・学習により習得した知識・技能や幅広い経験を発揮できる機会の拡充が図られた。 ・住民主体の参加型活動として定着し、ボランティア養成が図られた。
5) 男女共同参画社会の推進	① 男女共同参画の情報発信により啓発活動を推進した。	B	・男女がそれぞれ多様な能力を発揮し、社会のあらゆる分野に共に参画するため、学習活動を通じてさらに啓発に努めたい。

4 社会教育の推進と施設の整備

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 社会教育主事の養成と専任職員の配置	① 専任社会教育主事の配置及び養成	B	・社会教育主事の配置が固定化されつつあり、継続的な養成が必要である。
2) 社会教育関係職員研修の充実	① 二戸地区、県などの各種研修会へ、職員とともに社会教育委員等を派遣	A	・職員、委員等の資質向上に努めた。
3) 社会教育施設の整備充実	① 交流駅(仮称)整備に係る公民館・図書館の検討 ② 図書館事業運営業務委託	A	・情報収集により、利用の方向性を検討した。 ・図書館運営を業務委託し、図書館サービスの向上を図った。
4) 図書資料の収集・保存	① 受入図書冊数 ・購入931冊、寄贈等751冊、計1,682冊 ② 新聞、雑誌、官公庁出版物、郷土資料、視聴覚資料等の収集、保存	A	・住民の多様な学習ニーズに応えるため、利用者のリクエストや蔵書構成に留意しながら、資料の収集、保存に努めた。 ・蔵書点検を行い、適正な蔵書管理に努めた。 ・郷土資料、行政資料の収集について、町内各学校、役場各課に周知し、収集に努めた。
5) 図書資料の閲覧・貸出	① 登録数 個人1,785人、団体72団体 ② 閲覧、貸出(本館) ・貸出数 個人4,912人、団体210団体 ・貸出冊数 個人20,774冊、団体1,468冊 ③ 移動図書館車の巡回(21箇所) ・貸出数 団体369団体、個人81人 ・貸出冊数 団体8,889冊 個人274冊 ④ 貸出予約、リクエスト、レファレンス、複写サービス	B	・図書館情報システムを有効に活用し、蔵書検索や貸出予約等、利用者サービスの向上が図られた。 ・移動図書館車の運行により、学校や福祉施設、遠隔地の利用者の利便性が図られた。 ・貸出冊数の増加を図るため、図書館活動を周知しながら利用促進をさらに進める必要がある。
6) 読書普及活動事業	① 図書資料の展示 テーマ図書展12回、企画展4回 ② 読書に関する作品コンクール ・感想画、感想文募集 入賞60点 ③ 読書のつどい 142人 ④ おはなしの会「図書館ひろば」 年10回、延べ216人 こわいおはなし会 60人 ⑤ 第10回かるまい朗読会 中央公民館 154人 学校等巡回朗読会 6か所 507人 ⑥ 第6期子ども司書講座 15人修了 ⑦ ブックスタート 7か月児 12回 34組 ⑧ 幼児絵本感想画展 出展数131点、来場者延べ284人 ⑨ 図書館講座 工作・手芸教室 3回 延べ49人 ⑩ 読書週間行事 図書館クイズ 延べ153人 図書館スタンプラリー 延べ69人	A	・図書館資料を活用した図書展や講座を開催し、読書活動の普及に努めた。 ・おはなし会やブックスタート等の実施により、子どもの読書普及が図られた。 ・子ども司書講座を継続的に開催し、図書館への興味関心を高めるとともに子ども読書リーダーの育成が図られた。(認定者数51人) ・実行委員会と協力しながら朗読会を開催し、文学に親しむ機会を創出することができた。また、町内の子どもたちによる朗読劇を実施し、住民との協働参画の促進が図られた。 ・図書館利用の拡大につながる事業展開に努め、貸出冊数の増加を図りたい。
7) 学校図書館支援	① 学校図書館システム運用支援 ② 学校図書館巡回による活動支援 ③ 学校図書館ボランティアの育成 ・図書修理等の活動 毎週水曜日	A	・学校を定期的に巡回しながら、読書環境整備等の支援活動を行うことで、学校図書館の利用が高まった。 ・図書館ボランティアの協力のもと、小軽米保育園の図書整理を行った。

【分類】生涯スポーツの振興

1 スポーツ施設の整備・充実と活用促進

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 生涯スポーツ施設の計画的整備	① 施設の計画的整備 ・町民体育館屋根外壁及び照明改修工事 ② 体育備品の整備	A	・老朽化した町民体育館の屋根外壁及び照明の改修工事を行った。 ・町民のスポーツ機会の拡充と健康増進のため、卓球台等の備品を整備した。
2) 学校体育施設開放事業の充実	① 町内4小中学校(軽米中、小軽米小、晴山小、軽米小)の体育施設を開放	A	・地域のスポーツ活動の拠点として、地域住民のスポーツ推進の利便性が図られた。

2 スポーツ活動の活性化

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 町民のスポーツ・レクリエーション活動への参加機会の充実	① 軽米町総合体育大会(7競技) ・パークゴルフ競技 ・軟式野球競技 ・グラウンド・ゴルフ競技 ・町民体育祭 ・バレーボール競技 ・ゲートボール競技 ・卓球競技 ② 第19回「森と水とチューリップ」パークゴルフ大会(196人) ③ チャレンジデー2017開催 対戦相手:北海道新得町 軽米町:参加率67.9% ④ スキー教室 ・少年少女スキー教室 ・親子スキー教室 ・町民スキー教室	A	・町総合体育大会の開催により、町民スポーツの振興、健康、体力づくりに寄与するとともに、地域のコミュニティ形成が図られている。 ・町民体育祭の参加チーム増を図るため、地域の代表者による検討会議を年3回開催し、内容の見直しを図った。 ・町子育連の事業の同日開催、中学校や高校との連携により、事業の活性化につながった。 ・パークゴルフの普及と、参加者の健康、体力づくりに寄与できた。また、愛好者の幅広い交流が図られた。 ・12回目のチャレンジデーへの参加により、各競技団体、学校、事業所等による自主的な企画、運営がなされ、町民の健康づくりへの意識が高まっている。また、行政連絡区長や自治公民館長に参加取りまどめの協力を依頼することで、参加率の上昇につながった。 ・スキー教室の開催により、冬季スポーツの普及と健康増進、体力向上が図られた。
2) スポーツ・レクリエーション指導者の養成・確保	① 二戸地区生涯スポーツ交流会 ② 生涯スポーツ指導者講習会	A	・県や二戸地区で開催する指導者講習会にスポーツ指導者を派遣し、指導者の養成と指導力の向上に努めた。
3) スポーツ団体の育成・支援	① 町体育協会の活動支援 ② 町スポーツ少年団の活動支援	B	・軽米町体育協会及びスポーツ少年団の充実した活動の推進と競技力の向上が図られた。 ・各団体での自主的な事業実施に向けた体制強化のため、引き続き支援が必要である。
4) 競技スポーツの振興	① 少年少女スポーツ教室の開催 ・少年少女かけっこ教室 ・少年少女バレーボール教室 ・少年少女剣道教室 ② 各種スポーツ大会の開催 ・軽米町体育協会主催大会の支援	A	・基礎的な走り方や体の動かし方を学ぶための「かけっこ教室」を小学生を対象に開催し、小学生の基礎体力の向上を図った。 ・バレーボールと剣道の2競技で、高い技術を持つ指導者による小中高生対象の教室を実施し、競技力の向上、競技人口の拡大を図った。 ・各競技団体主催大会が年間数多く開催され、連携・協力し、競技力の向上に努めた。今後も連携、支援に努めたい。
5) 生涯スポーツ推進体制の整備・充実	① スポーツ推進委員の委嘱20人 ・スポーツの実技指導及び助言 ② 健康体力づくり関係機関との連携	A	・スポーツ推進委員協議会との連携、協力が図られ、事業の円滑な推進が図られた。 ・健康福祉課との連携により、効率的な事業運営が図られた。

【分類】 多様で個性ある文化の創造

1 芸術文化の振興

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 町民の芸術文化活動の推進	① 第38回軽米町民文化祭 ○さつき展 来場者 90人 ○開幕式典、文化協会ステージ発表会来場者 220人 ○一般・文化協会作品展示 379点 ○幼小中高書写絵画作品展 412点 来場者 580人 ② 青少年劇場 「ALOHA!フラ」鑑賞会 小学生206人 ③ 東京多摩交響楽団演奏会 来場者 220人 ・指揮体験 ・合唱(童謡を歌う会と共演) ・軽米中学校吹奏楽部への楽器指導 ④ 中・高生の音楽部・吹奏楽部への演奏機会の提供	A	・町民の芸術文化活動の成果を発表・展示することで、一般町民に鑑賞の機会を設け、芸術文化の振興が図られた。また、町民講座のほか、寿大学やゆったり介護の会、ピヨピヨ広場等の各種団体の作品も展示し、活動紹介にもつながる良い機会となった。 ・普段接することの少ない外国の文化を直接観て触れる貴重な機会となった。 ・「童謡を歌う会」との共演や指揮体験等、参加型のコンサートとなり、幅広い年代で楽しむことができた。また、開演前には、プロの演奏家による軽米中学校吹奏楽部への指導をいただき、同部の県大会出場に弾みをつけた。 ・中・高生の活動の成果を発表する機会の拡充がなされた。
2) 芸術文化団体の育成	① 軽米町文化協会育成支援 ・町民文化祭の共催事業 ・芸術文化視察研修の実施(第70回岩手芸術祭美術展・開幕フェスティバル、宮古市民劇鑑賞) ・加盟団体の支援	A	・文化協会加盟団体の学習活動を広く一般町民にも周知し、芸術文化に親しむ機会を提供することにより、各団体の活性化が図られた。 ・文化協会との連携により、町民文化祭や視察研修を開催し、優れた芸術文化を鑑賞する機会となった。

2 文化遺産の保存と伝承

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1) 文化財の調査と指定の促進	① 町道用地発掘調査事業 ・町道参勤街道線発掘調査 ② 町内遺跡発掘調査事業 ・再生可能エネルギー対応等試掘調査 ・千本松遺跡内容確認調査 ・赤石沢遺跡出土金属器保存処理	A	・沼 I 遺跡の発掘調査により、埋蔵文化財の保護と開発計画の調整が図られた。 ・太陽光発電等開発計画の事前試掘調査を進め、埋蔵文化財の保護と開発計画の調整が図られた。 ・千本松遺跡の内容確認調査で、縄文時代の環状配石遺構の広がりを捉えることができた。
2) 文化財の保存と活用	① 第45回軽米町郷土芸能まつり開催 町内郷土芸能3団体参加 147人 ② 軽米町郷土芸能保存会の支援 ③ 軽米町文化財MAPの更新 ④ ケーブルテレビ番組による文化財紹介 ⑤ 県有埋蔵文化財資料の譲与受入	B	・町民に優れた郷土芸能を鑑賞する機会となった。町郷土芸能保存会加盟団体の良い刺激を与えることができた。 ・継続した団体支援を行いながら、郷土芸能保存に努めたい。 ・町民が町の歴史・文化財を意識するきっかけ作りを行うことができた。
3) 文化財愛護思想の啓発	① 軽米町史の販売 ② 文化財調査報告書等の発刊	B	・軽米町史等の販売は例年通りであった。 ・広く情報発信をして販売促進に努めたい。

【分類】 教育振興運動の推進

事業名	事業の内容	評価	成果と課題
1)教育振興運動の推進	① 教育振興運動推進委員会 ・常任委員会の開催 年2回 ・総会の開催 年1回 ・研修会の開催 年1回 ② 笹渡教育振興会(被災地訪問事業)への支援 ③ インターネット利用実態調査の実施 ④ 教育振興運動集約集会 講演会「学校・家庭・地域の連携による生活習慣づくり～青森県三戸町の取り組みを通して～」 71人 講師 三戸町教育委員会 小中一貫教育推進班長 馬場 幸治氏 ⑤ 「実践のあゆみ」発刊	A	・教育振興運動の推進方針に沿って、多様な事業の展開がなされている。学校、家庭、地域との連携を統一した考え方で進めることができた。 ・笹渡教育振興会では、仮設住宅を訪問し、交流の中から被災地理解を深めることができた。 ・小・中・高生インターネット利用状況の継続した調査により活動の評価分析を行うことができた。 ・集約集会では、子どもの生活習慣づくりの大切さについてお話いただき、今後の活動の方向性を見直す機会となった。 ・町の教育振興運動の成果を集約し、各実践区との交流を深めながら、運動の意義と実践意欲を高めることが出来た。